

不易流行

～和賀組社長からのメッセージ～

VOL.105 (2024.12.27)

令和6年度スローガン
過去最高業績への挑戦
～和賀組さんで良かったと言われよう～

株式会社和賀組 代表取締役 和賀幸雄

「歴史から学ぶ経営者の心構え」と題した講演を聴く機会があり、その中で「技術者には法令に定める基準や指針を超えて結果責任が問われる」という言葉を遺した「平井弥之助」という電力土木技術者の紹介が有りました。明治35年宮城県柴田町生まれの平井氏は東京帝国大学工学部土木工学科を卒業後東邦電力(株)に入社、49歳で東北電力常務取締役建設局長に就任しております。この平井氏の功績として上げられているのが地震・津波に対する危機管理の力で、技術者としての合理性と電気事業者としての責任感に基づいて地震・津波対策の重要性を説いたとされております。宮城県の太平洋に面した町で生まれ育った平井氏は、地震・津波の恐ろしさを実感していたと云われ、西暦869年に発生した「貞観大津波」が岩沼の千貫神社(標高8m)まで来たという史実から、東北電力女川原子力発電所の建設に際して、貞観地震級の大津波に備えるために敷地を14.8メートルの高台に設けることを強く主張したとされています。



平井弥之助
(1902年～1986年)
Wikipediaより

平井氏が亡くなって四半世紀が経過した2011年3月11日、東日本大震災が発生し13.78m(波高12.78m+地盤沈下1m)の津波が女川原子力発電所を襲いましたが、津波は海拔14.8メートルの敷地に設置された3基の原子炉に達することなく、3基とも11時間以内に正常に冷温停止しました。それだけではなく女川原発の建物はその後3ヶ月間にわたって津波で家屋を喪失した364人の人々の避難所となっております。これと比較して海拔10mに建設された福島第一原発は未曾有の津波被害を受け、地元や福島県、日本から全世界へと放射線被害による影響は甚大なものとなりました。

女川原発は震災から1年後に国際原子力機関(IAEA)の調査を受け、その最終報告書では、「女川原子力発電所は地震の規模、揺れの大きさ、長い継続時間にかかわらず驚くほど損傷を受けていない」と報告されております。

今年も残すところ数日となりました。年末年始除雪作業に従事される皆様には大変ご難儀をお掛けします。社員の皆様には今年も一年大変頑張ってもらいました、皆様どうぞ良いお年をお迎えください。

採石業協会50周年

10/28 一般社団法人秋田県採石業協会創立50周年記念式典・祝賀会が秋田キャッスル

ホテルで開催され、成瀬砕石(株)社長として出席してきました。正会員38社、賛助会員4社を



初め、許可を司る秋田県・市町村からも参加頂き盛大に祝いました。



湯沢市政施行20周年記念事業

12/1 雄勝文化会館オービオンで、「考えようエコまち湯沢の現在地～ゼロカーボンシティ宣言のこれまでとこれから～」と題して、基調講演とパネルディスカッションが行われ、商工会議所会頭としてパネリストを務めました。来年2月のさきがけ新聞で特集を組む予定との事です。



エコな湯沢へ連携を



CO2削減の取り組み報告



初丑

12/3 初丑祭典が行われました。近年は平日での開催が難しいとの事で氏子



の皆さんが相談して、今年からは12月の第一土曜日に開催することとなりました。当社としては単独とはなりますが、来年以降も初丑の日に開催したいと考えております。ちなみに2025年は12月22日(月)となります。この時から蓮君は顔色が悪い気がします。

